

事務事業評価シート (1 / 2)

1 頁
令和 3 年 8 月 18 日
14 時 59 分 09 秒

評価年度 令和 2 年度 進捗区分 2 次評価
所属 0005758020 文化振興課学芸係
事務事業 02580 歴史博物館等施設管理事業

所属長名 近藤一博
担当者 伊藤基之
電話番号 0566-77-6655

【基本情報】

計画回数	02	第 8 次安城市総合計画		
5 K の分類	004	きずな		
項目 (施策)	005	1 5 文化・芸術		
施策の方針	002	文化財の保存と活用		
事務事業	009	歴史博物館等施設管理事業		
事業期間	平成 2 年度 ~			
実施方法	一部委託			
会計区分	一般会計	事業区分	政策的	性質別費目
健全事業		マニフェスト		地方創生
根拠法令等	安城市歴史博物館・市民ギャラリー・埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例			
備考	平成 2 8 年度の事務事業の見直しにより、平成 2 9 年度から以下の事業を統合しています。 ・歴史博物館・市民ギャラリー・埋蔵文化財センター施設管理事業 ・歴史博物館運営事業 ・市民ギャラリー・埋蔵文化財センター運営事業			

【事業分析】

対象	歴史博物館・市民ギャラリー・埋蔵文化財センター・安祥城址公園の利用者が
目的	歴史や美術に親しみ、常に快適に利用できるように施設にします。
手段	博物館協議会及び市民ギャラリー運営委員会を開催し運営について意見をいただき、指定管理により施設管理や集客イベント等を行います。
事務内容	歴史博物館・市民ギャラリー・埋蔵文化財センター・安祥城址公園の管理運営、博物館協議会及び市民ギャラリー運営委員会開催、施設修繕

【コスト】

(単位 : 千円)

	平成 31 年度 決算額	令和 2 年度 決算額	令和 3 年度 予算額
トータルコスト	461,389	227,621	159,163
事業費	448,789	216,911	149,263
国庫支出金	0	0	0
県支出金	0	0	0
地方債	0	0	0
その他	126,576	0	0
一般財源	322,213	216,911	149,263
人件費計	12,600	10,710	9,900
正規 (人)	2.00	1.70	1.50
その他経費	0	0	0

	平成 31 年度	令和 2 年度	令和 3 年度
【事務事業活動実績】	指定管理連絡調整会議 (毎月)、博物館非構造部材等耐震化及び保全改修工事、博物館協議会 3 回・ギャラリー運営委員会 2 回開催	指定管理連絡調整会議 (毎月)、博物館協議会 3 回・ギャラリー運営委員会 2 回開催、安祥文化のさと駐車場整備	指定管理連絡調整会議 (毎月)、博物館協議会 3 回・ギャラリー運営委員会 2 回開催、施設修繕

事務事業評価シート (2 / 2)

2 頁
令和 3 年 8 月 18 日
14 時 59 分 09 秒

評価年度 令和 2 年度 進捗区分 2 次評価
所属 0005758020 文化振興課学芸係
事務事業 02580 歴史博物館等施設管理事業

【定量評価】

上段：目標値 下段：実績値

指標名	単位	平成31年度	令和 2 年度	令和 3 年度
歴史博物館入館者数	人	58,700.00 37,811.00	59,400.00 54,148.00	71,600.00 0.00
市民ギャラリー入館者数	人	160,500.00 136,960.00	164,000.00 126,544.00	155,500.00 0.00
市民ギャラリー展示室利用率	%	69.00 63.40	71.00 74.70	70.00 0.00
埋蔵文化財センター入館者数	人	9,300.00 8,038.00	9,600.00 2,232.00	8,000.00 0.00

【定性評価】

カテゴリ	評価の観点	基準	ランク
1	必要性 国・県・民間等との補完性	1 国・県・民間等がサービスを行っていない	1
		2 国・県・民間等のサービスは不十分で、市で補完する必要がある	
		3 国・県・民間等が同様のサービスを行っている	
理由	市の歴史を伝える文化財の保全が必要です。		
2	必要性 市民ニーズの有無	1 市民ニーズは充分にある	1
		2 社会情勢の変化等により市民ニーズは低下している	
		3 市民ニーズはない又は不明である	
理由	安城の歴史文化紹介及び芸術活動発表の場として機能しています。		
3	有効性 目標に対する進捗状況	1 目標を上回る又は目標おりの進捗である	2
		2 目標を下回る進捗状況である	
		3 進捗はかなり遅れている	
理由	コロナ禍による休館、来館者の減少がありました。		
4	効率性 事業の効率化・事業費の削減	1 事業手法の検討や事務改善に取り組み、具体的な成果を上げている	1
		2 事業手法の検討や事務改善に取り組んでいる	
		3 事業手法の検討や事務改善にあまり取り組めていない	
理由	指定管理者との共同運営を行っています。		
5	公平性 事業規模・サービス水準	1 環境変化や他自治体等と比較して適正である。	1
		2 環境変化や他自治体等と比較してあまり適正でない。	
		3 環境変化や他自治体等と比較して適正でない。	
理由	隣接市に歴史博物館が新設または計画されています。		

【1次評価結果】

事業の方向性	維持・継続
1次コメント (400文字)	2年度はコロナ禍の影響により休館、来館者の減少がみられました。そのような中でもコロナ対策を万全にすることで、下半期の事業については計画どおり実施することができました。また駐車場については隣接する小学校との共同利用のための整備を実施する中で、今まで北側エリアと南側エリアをつなぐ通路部分が一方通行でしたが、それを解消する整備も行き、施設利用者の利便性を高めました。3年度についても依然コロナ禍の影響は続くと思いますが、来館者が安心して観覧できる環境づくりを行っていきます。

【2次評価結果】

事業の方向性	評価未実施
2次コメント (400文字)	本事業においては、2次評価を実施していません。

事務事業評価シート（1/2）

3頁
令和 3年 8月18日
14時59分09秒

評価年度 令和 2年度 進捗区分 2次評価
所属 0005758020 文化振興課学芸係
事務事業 02581 丈山苑管理事務

所属長名 近藤一博
担当者 日倉めぐみ
電話番号 0566-77-6655

【基本情報】

計画次数	02	第8次安城市総合計画		
5Kの分類	003	経済		
項目（施策）	003	9観光		
施策の方針	002	観光資源の活用		
事務事業	001	丈山苑管理事務		
事業期間	平成 8年度 ~			
実施方法	全部委託			
会計区分	一般会計	事業区分	政策的	性質別費目
健全事業		マニフェスト		地方創生 定住・移住促進
根拠法令等	丈山苑の設置及び管理に関する条例			
備考				

【事業分析】

対象	丈山苑の利用者が
目的	風雅を楽しむ詩作に遊んだ石川丈山のころを四季折々の草木を通じて感じられ、快適に施設を利用できるようになります。
手段	施設管理やイベントの実施を指定管理により行います。
事務内容	指定管理事務、施設修繕

【コスト】

（単位：千円）

	平成31年度 決算額	令和 2年度 決算額	令和 3年度 予算額
トータルコスト	47,788	49,352	48,168
事業費	43,378	44,942	43,548
国庫支出金	0	0	0
県支出金	0	0	0
地方債	0	0	0
その他	0	0	0
一般財源	43,378	44,942	43,548
人件費計	4,410	4,410	4,620
正規（人）	0.70	0.70	0.70
その他経費	0	0	0

	平成31年度	令和 2年度	令和 3年度
【事務事業活動実績】	指定管理者連絡調整会議（毎月）、建物等修繕、樹木剪定委託	指定管理者連絡調整会議（毎月）、建物等修繕、樹木剪定委託	指定管理者連絡調整会議（毎月）、建物等修繕、樹木剪定委託

事務事業評価シート (2 / 2)

評価年度 令和 2 年度 進捗区分 2 次評価
所属 0005758020 文化振興課学芸係
事務事業 02581 丈山苑管理事務

【定量評価】

上段：目標値 下段：実績値

指標名	単位	平成31年度	令和 2年度	令和 3年度
丈山苑入苑者数	人	33,000.00 28,485.00	30,000.00 22,686.00	19,550.00 0.00
苦情件数	件	0.00 5.00	0.00 7.00	0.00 0.00

【定性評価】

カテゴリ	評価の観点	基準	ランク
1	必要性 国・県・民間等との補 完性	1 国・県・民間等がサービスを行っていない	1
		2 国・県・民間等のサービスは不十分で、市で補完する必要がある	
		3 国・県・民間等が同様のサービスを行っている	
理由	石川丈山を顕彰する施設は当該施設のみです。		
2	必要性 市民ニーズの有無	1 市民ニーズは充分にある	1
		2 社会情勢の変化等により市民ニーズは低下している	
		3 市民ニーズはない又は不明である	
理由	市の観光拠点の一つとなっています。		
3	有効性 目標に対する進捗状況	1 目標を上回る又は目標おりの進捗である	2
		2 目標を下回る進捗状況である	
		3 進捗はかなり遅れている	
理由	コロナ禍の影響による休苑及び来苑者の減少がありました。		
4	効率性 事業の効率化・事業費 の削減	1 事業手法の検討や事務改善に取り組み、具体的な成果を上げている	1
		2 事業手法の検討や事務改善に取り組んでいる	
		3 事業手法の検討や事務改善にあまり取り組めていない	
理由	指定管理者制度を導入しています。		
5	公平性 事業規模・サービス水 準	1 環境変化や他自治体等と比較して適正である。	1
		2 環境変化や他自治体等と比較してあまり適正でない。	
		3 環境変化や他自治体等と比較して適正でない。	
理由	他自治体と比べると呈茶を安価に提供しています。		

【1次評価結果】

事業の方向性	維持・継続
1次コメント (400文字)	コロナ禍の影響により休苑や来苑者の減少がありましたが、今後も市民が施設、庭園などを通じて郷土出身の文人・石川丈山を顕彰できる拠点として維持していきます。また、観光拠点として市内外の来苑者の集客にも努めていきます。

【2次評価結果】

事業の方向性	評価未実施
2次コメント (400文字)	本事業においては、2次評価を実施していません。

事務事業評価シート (1 / 2)

5 頁
令和 3 年 8 月 18 日
14 時 59 分 09 秒

評価年度 令和 2 年度 進捗区分 2 次評価
所属 0005758020 文化振興課学芸係
事務事業 02582 歴史博物館展示事業

所属長名 近藤一博
担当者 伊藤基之
電話番号 0566-77-6655

【基本情報】

計画回数	02	第 8 次安城市総合計画		
5 K の分類	004	きずな		
項目 (施策)	005	1 5 文化・芸術		
施策の方針	002	文化財の保存と活用		
事務事業	008	歴史博物館展示事業		
事業期間	平成 3 年度 ~			
実施方法	一部委託			
会計区分	一般会計	事業区分	政策的	性質別費目
健全事業		マニフェスト		地方創生
根拠法令等	博物館法、安城市歴史博物館の設置及び管理に関する条例			
備考	平成 2 8 年度の事務事業の見直しにより、平成 2 9 年度から以下の事業を統合しています。 ・歴史博物館常設展事業 ・歴史博物館特別・企画展事業 ・企画展調査事業 ・次年度対策事業			

【事業分析】

対象	歴史や文化に関心がある人が
目的	展覧会を観覧することにより安城市や地域の歴史文化に対して理解を深められるようになります。
手段	特別展企画展を年 5 回開催し、記念講演や講座を実施します。また、調査の成果を常設展示に反映させます。
事務内容	特別展企画展・記念講演会開催、常設展管理・展示替え・リニューアル検討

【コスト】

(単位 : 千円)

	平成 31 年度 決算額	令和 2 年度 決算額	令和 3 年度 予算額
トータルコスト	22,490	42,564	38,118
事業費	9,260	24,924	22,938
国庫支出金	0	0	0
県支出金	0	0	0
地方債	0	0	0
その他	370	300	200
一般財源	8,890	24,624	22,738
人件費計	13,230	17,640	15,180
正規 (人)	2.10	2.80	2.30
その他経費	0	0	0

	平成 31 年度	令和 2 年度	令和 3 年度
【事務事業活動実績】	特別展 1 回、企画展 1 回、記念講演会、次年度以降展覧会調査	特別展 3 回、企画展 2 回、記念講演会、次年度以降展覧会調査	特別展 3 回、企画展 2 回、記念講演会、次年度以降展覧会調査

事務事業評価シート (2 / 2)

評価年度 令和 2 年度 進捗区分 2 次評価
所属 0005758020 文化振興課学芸係
事務事業 02582 歴史博物館展示事業

【定量評価】

上段：目標値 下段：実績値

指標名	単位	平成31年度	令和 2 年度	令和 3 年度
特別企画展観覧者数	人	12,000.00 13,211.00	23,000.00 20,098.00	28,000.00 0.00
常設展観覧者数	人	5,800.00 7,310.00	9,000.00 8,197.00	14,000.00 0.00

【定性評価】

カテゴリ	評価の観点	基準	ランク
1	必要性 国・県・民間等との補 完性	1 国・県・民間等がサービスを行っていない	1
		2 国・県・民間等のサービスは不十分で、市で補完する必要がある	
		3 国・県・民間等が同様のサービスを行っている	
理由	市の歴史文化の展示は当該市が開催します。		
2	必要性 市民ニーズの有無	1 市民ニーズは充分にある	1
		2 社会情勢の変化等により市民ニーズは低下している	
		3 市民ニーズはない又は不明である	
理由	市域に関わる企画展示を年 4 回開催しています。		
3	有効性 目標に対する進捗状況	1 目標を上回る又は目標どおりの進捗である	2
		2 目標を下回る進捗状況である	
		3 進捗はかなり遅れている	
理由	コロナ禍による休館、来館者の減少がありました。		
4	効率性 事業の効率化・事業費 の削減	1 事業手法の検討や事務改善に取り組み、具体的な成果を上げている	1
		2 事業手法の検討や事務改善に取り組んでいる	
		3 事業手法の検討や事務改善にあまり取り組めていない	
理由	集客事業、PR を指定管理者が行っています。		
5	公平性 事業規模・サービス水 準	1 環境変化や他自治体等と比較して適正である。	1
		2 環境変化や他自治体等と比較してあまり適正でない。	
		3 環境変化や他自治体等と比較して適正でない。	
理由	市域に関わる歴史文化に重点を置いた企画となっています。		

【1 次評価結果】

事業の方向性	維持・継続
1 次コメント (4 0 0 文字)	コロナ禍の影響による休館や来館者の減少がありましたが、夏の企画展は目標値を達成しており博物館に対するニーズの高さを感じました。また、開館 3 0 周年記念特別展「家康と松平一族」では、観覧料が通常よりも高かったものの目標値の 9 割を達成するなど、コロナ禍においても関心の高さがうかがえました。今後も展示内容の充実化に努め、さらなる市民の来館が望める施設としていきます。なお、常設展示は開館 3 0 年を経過しリニューアルを実施する時期にきており、検討が必要です。

【2 次評価結果】

事業の方向性	評価未実施
2 次コメント (4 0 0 文字)	本事業においては、2 次評価を実施していません。

事務事業評価シート (1 / 2)

7頁
令和 3年 8月18日
14時59分09秒

評価年度 令和 2年度 進捗区分 2次評価
所属 0005758020 文化振興課学芸係
事務事業 02583 歴史博物館講座等開催事業

所属長名 近藤一博
担当者 三島一信
電話番号 0566-77-6655

【基本情報】

計画回数	02	第8次安城市総合計画		
5Kの分類	004	きずな		
項目(施策)	005	15文化・芸術		
施策の方針	002	文化財の保存と活用		
事務事業	007	歴史博物館講座等開催事業		
事業期間	平成 3年度 ~			
実施方法	直営			
会計区分	一般会計	事業区分	政策的	性質別費目
健全事業		マニフェスト		地方創生
根拠法令等	博物館法、安城市歴史博物館の設置及び管理に関する条例			
備考	平成28年度の事務事業の見直しにより、平成29年度から以下の事業を統合しています。 ・歴史博物館体験学習等開催事業 ・歴史博物館見学学習・実習等受け入れ事業			

【事業分析】

対象	歴史に関心のある人、市内小中学生、学生が
目的	地域の歴史文化を学習し理解できるようになります。
手段	連続講座・松平シンポジウムを開催し、見学学習・博物館実習をはじめ総合学習の一環として他の学年や市外小中学生、高校生のほか中学生の職場体験を受け入れ、見学学習をサポートするボランティアを育成します。
事務内容	入門講座開催、松平シンポジウム開催、見学学習・職場体験受入、博物館実習実施、博物館ボランティア育成

【コスト】

(単位：千円)

	平成31年度 決算額	令和 2年度 決算額	令和 3年度 予算額
トータルコスト	1,662	1,810	7,692
事業費	402	550	1,092
国庫支出金	0	0	0
県支出金	0	0	0
地方債	0	0	0
その他	6	59	20
一般財源	396	491	1,072
人件費計	1,260	1,260	6,600
正規(人)	0.20	0.20	1.00
その他経費	0	0	0

	平成31年度	令和 2年度	令和 3年度
【事務事業活動実績】	入門講座(1テーマ)、連続講座(1テーマ)、見学学習、体験学習、博物館実習、博物館ボランティア例会・養成	入門講座(1テーマ)、連続講座(1テーマ)、松平シンポジウム、博物館実習、博物館ボランティア例会・養成	入門講座(1テーマ)、連続講座(3テーマ)、見学学習、体験学習、松平シンポジウム、博物館実習、博物館ボランティア例会・養成

事務事業評価シート（2/2）

8頁
令和3年8月18日
14時59分09秒

評価年度 令和2年度 進捗区分 2次評価
所属 0005758020 文化振興課学芸係
事務事業 02583 歴史博物館講座等開催事業

【定量評価】

上段：目標値 下段：実績値

指標名	単位	平成31年度	令和2年度	令和3年度
連続講座等聴講率	%	92.00	92.00	90.00
		83.00	77.00	0.00
小中学生来館者数	人	3,800.00	200.00	3,800.00
		3,817.00	532.00	0.00
博物館ボランティア活動参加者数	人	190.00	20.00	100.00
		135.00	0.00	0.00

【定性評価】

カテゴリ	評価の観点	基準	ランク
1	必要性 国・県・民間等との補完性	1 国・県・民間等がサービスを行っていない	1
		2 国・県・民間等のサービスは不十分で、市で補完する必要がある	
		3 国・県・民間等が同様のサービスを行っている	
理由	市の歴史に関する講座です。		
2	必要性 市民ニーズの有無	1 市民ニーズは充分にある	1
		2 社会情勢の変化等により市民ニーズは低下している	
		3 市民ニーズはない又は不明である	
理由	定員を超える申込があります。		
3	有効性 目標に対する進捗状況	1 目標を上回る又は目標おりの進捗である	2
		2 目標を下回る進捗状況である	
		3 進捗はかなり遅れている	
理由	コロナ禍により聴講者数に制限を設けました。		
4	効率性 事業の効率化・事業費の削減	1 事業手法の検討や事務改善に取り組み、具体的な成果を上げている	2
		2 事業手法の検討や事務改善に取り組んでいる	
		3 事業手法の検討や事務改善にあまり取り組めていない	
理由	職員を講師とする講座を開催しています。		
5	公平性 事業規模・サービス水準	1 環境変化や他自治体等と比較して適正である。	1
		2 環境変化や他自治体等と比較してあまり適正でない。	
		3 環境変化や他自治体等と比較して適正でない。	
理由	大学教授クラスによる講座を充実させています。		

【1次評価結果】

事業の方向性	維持・継続
1次コメント (400文字)	コロナ禍の影響により見学学習、ボランティア活動は中止となりました。連続講座も上半期は中止となり下半期への延期もできなかったため、急遽新規に講座を企画し対応しました。聴講希望者が多い講座は、第2会場をリモート会場として開催する対応をとりました。今後は講座の内容に応じて開催スタイルを検討し、より多くの人が受講できるようにしていきます。

【2次評価結果】

事業の方向性	評価未実施
2次コメント (400文字)	本事業においては、2次評価を実施していません。

事務事業評価シート (1 / 2)

9頁
令和 3年 8月18日
14時59分09秒

評価年度 令和 2年度 進捗区分 2次評価
所属 0005758020 文化振興課学芸係
事務事業 02584 歴史博物館運営事業

所属長名 近藤一博
担当者 伊藤基之
電話番号 0566-77-6655

【基本情報】

計画回数	02	第8次安城市総合計画		
5Kの分類	004	きずな		
項目(施策)	005	15文化・芸術		
施策の方針	002	文化財の保存と活用		
事務事業	006	歴史博物館運営事業		
事業期間	平成 3年度 ~			
実施方法	直営			
会計区分	一般会計	事業区分	政策的	性質別費目
健全事業		マニフェスト		地方創生
根拠法令等	博物館法、安城市歴史博物館の設置及び管理に関する条例			
備考	平成28年度の事務事業の見直しにより、平成29年度から以下の事業を統合しています。 ・歴史博物館情報提供事業 ・歴史博物館収蔵品購入事業			

【事業分析】

対象	地域の歴史文化に関心のある人が
目的	調査研究ができ、貴重な歴史資料を適切な環境で保存することで、実物資料を見ることができるようになります。
手段	展示室・収蔵庫の環境管理及び資料くん蒸などにより収蔵資料の保存をはかります。
事務内容	文献資料室運営、展示室環境管理、収蔵品の購入、収蔵資料修繕、くん蒸

【コスト】

(単位：千円)

	平成31年度 決算額	令和 2年度 決算額	令和 3年度 予算額
トータルコスト	17,105	18,085	18,323
事業費	11,435	14,305	15,023
国庫支出金	0	0	0
県支出金	0	0	0
地方債	0	0	0
その他	1	1	0
一般財源	11,434	14,304	15,023
人件費計	5,670	3,780	3,300
正規(人)	0.90	0.60	0.50
その他経費	0	0	0

	平成31年度	令和 2年度	令和 3年度
【事務事業活動実績】	歴史資料・参考資料購入、くん蒸(6回)、収蔵庫・展示室環境保全業務(2回)・真菌菌検査(2回)、I P M 研修参加、文献資料室運営管理	歴史資料・参考資料購入、くん蒸(7回)、収蔵庫・展示室環境保全業務(5回)・真菌菌検査(2回)、I P M 研修参加、文献資料室運営管理	歴史資料・参考資料購入、くん蒸(6回)、収蔵庫・展示室環境保全業務(5回)・真菌菌検査(2回)、研修参加、文献資料室運営管理

事務事業評価シート (2 / 2)

評価年度 令和 2年度 進捗区分 2次評価
所属 0005758020 文化振興課学芸係
事務事業 02584 歴史博物館運営事業

【定量評価】

上段：目標値 下段：実績値

指標名	単位	平成31年度	令和 2年度	令和 3年度
博物館収蔵資料点数	点	86,000.00 89,052.00	87,000.00 93,762.00	94,000.00 0.00
文献資料室収蔵資料点数	点	57,000.00 57,937.00	58,000.00 58,643.00	59,000.00 0.00

【定性評価】

カテゴリ	評価の観点	基準	ランク
1	必要性 国・県・民間等との補完性	1 国・県・民間等がサービスを行っていない	1
		2 国・県・民間等のサービスは不十分で、市で補完する必要がある	
		3 国・県・民間等が同様のサービスを行っている	
理由	収蔵資料の適切な保存管理が必要です。		
2	必要性 市民ニーズの有無	1 市民ニーズは充分にある	1
		2 社会情勢の変化等により市民ニーズは低下している	
		3 市民ニーズはない又は不明である	
理由	展示資料の観覧、研究目的の資料閲覧、文献利用があります。		
3	有効性 目標に対する進捗状況	1 目標を上回る又は目標どおりの進捗である	1
		2 目標を下回る進捗状況である	
		3 進捗はかなり遅れている	
理由	目標値を上回っています。		
4	効率性 事業の効率化・事業費の削減	1 事業手法の検討や事務改善に取り組み、具体的な成果を上げている	2
		2 事業手法の検討や事務改善に取り組んでいる	
		3 事業手法の検討や事務改善にあまり取り組めていない	
理由	くん蒸回数の見直しを行いました。		
5	公平性 事業規模・サービス水準	1 環境変化や他自治体等と比較して適正である。	1
		2 環境変化や他自治体等と比較してあまり適正でない。	
		3 環境変化や他自治体等と比較して適正でない。	
理由	収蔵資料による企画展示を開催しています。		

【1次評価結果】

事業の方向性	維持・継続
1次コメント (400文字)	地域の歴史を知るために様々な資料を収集しますが、それらを後世に残していくためには適切な展示・収蔵環境の維持が必要です。そのための知識取得の職員研修も行っていきます。

【2次評価結果】

事業の方向性	評価未実施
2次コメント (400文字)	本事業においては、2次評価を実施していません。

事務事業評価シート (1 / 2)

評価年度 令和 2年度 進捗区分 2次評価
所属 0005758020 文化振興課学芸係
事務事業 02585 史料整理活用事業

所属長名 近藤一博
担当者 三島一信
電話番号 0566-77-6655

【基本情報】

計画回数	02	第8次安城市総合計画		
5Kの分類	004	きずな		
項目(施策)	005	15文化・芸術		
施策の方針	002	文化財の保存と活用		
事務事業	005	史料整理活用事業		
事業期間	平成20年度～			
実施方法	直営			
会計区分	一般会計	事業区分	政策的	性質別費目
健全事業		マニフェスト		地方創生
根拠法令等				
備考				

【事業分析】

対象	安城の歴史や文化に興味のある人が
目的	市内の文献資料を通してより深く関心をもてるようになります。
手段	市史編さん事業により刊行した新編安城市史等の幅広い活用を促すとともに、執筆の根拠となった古文書等の資料、マイクロフィルム、複製コピーなどの貴重な歴史的財産を整理・保存・公開します。また、未だ旧家・町内会・寺社等には未公開・未整理の貴重な歴史資料が多数存在し、それらの調査・整理・保存・公開を行います。
事務内容	収蔵・寄託資料管理、収蔵等資料整理、資料調査、文書史料集成刊行

【コスト】

(単位:千円)

	平成31年度 決算額	令和 2年度 決算額	令和 3年度 予算額
トータルコスト	17,767	18,416	22,691
事業費	10,837	13,376	16,091
国庫支出金	0	0	0
県支出金	0	0	0
地方債	0	0	0
その他	0	0	0
一般財源	10,837	13,376	16,091
人件費計	6,930	5,040	6,600
正規(人)	1.10	0.80	1.00
その他経費	0	0	0

	平成31年度	令和 2年度	令和 3年度
【事務事業活動実績】	資料調査・受入・整理 ・研究・収蔵、文書史料集成刊行	資料調査・受入・整理 ・研究・収蔵	資料調査・受入・整理 ・研究・収蔵、文書史料集成刊行

事務事業評価シート (2 / 2)

12 頁
令和 3 年 8 月 18 日
14 時 59 分 09 秒

評価年度 令和 2 年度 進捗区分 2 次評価
所属 0005758020 文化振興課学芸係
事務事業 02585 史料整理活用事業

【定量評価】

上段：目標値 下段：実績値

指標名	単位	平成31年度	令和 2年度	令和 3年度
博物館収蔵資料点数	点	89,000.00 89,052.00	93,000.00 93,762.00	101,000.00 0.00
資料整理点数	点	12,000.00 12,241.00	9,000.00 9,835.00	8,000.00 0.00

【定性評価】

カテゴリ	評価の観点	基準	ランク
1	必要性 国・県・民間等との補 完性	1 国・県・民間等がサービスを行っていない	1
		2 国・県・民間等のサービスは不十分で、市で補完する必要がある	
		3 国・県・民間等が同様のサービスを行っている	
理由	市域の歴史資料は当該市で調査・収集・保存します。		
2	必要性 市民ニーズの有無	1 市民ニーズは充分にある	1
		2 社会情勢の変化等により市民ニーズは低下している	
		3 市民ニーズはない又は不明である	
理由	市民が歴史を知るための資料となります。		
3	有効性 目標に対する進捗状況	1 目標を上回る又は目標どおりの進捗である	1
		2 目標を下回る進捗状況である	
		3 進捗はかなり遅れている	
理由	目標どおり収集・整理できました。		
4	効率性 事業の効率化・事業費 の削減	1 事業手法の検討や事務改善に取り組み、具体的な成果を上げている	2
		2 事業手法の検討や事務改善に取り組んでいる	
		3 事業手法の検討や事務改善にあまり取り組めていない	
理由	資料整理員の能力向上に努めています。		
5	公平性 事業規模・サービス水 準	1 環境変化や他自治体等と比較して適正である。	1
		2 環境変化や他自治体等と比較してあまり適正でない。	
		3 環境変化や他自治体等と比較して適正でない。	
理由	他自治体以上に資料を収集・整理・保存する機能を有しています。		

【1次評価結果】

事業の方向性	維持・継続
1次コメント (400文字)	市域の歴史を知ることができる収蔵資料、寄贈資料、調査資料等の整理を行い、その利用に供するために目録を作成しています。市域の都市化に伴い古い家屋の解体が進んでいるため、貴重な資料が廃棄等される前の調査収集活動が必要となっています。

【2次評価結果】

事業の方向性	評価未実施
2次コメント (400文字)	本事業においては、2次評価を実施していません。

事務事業評価シート (1 / 2)

1 頁
令和 3 年 8 月 18 日
15 時 00 分 08 秒

評価年度 令和 2 年度 進捗区分 2 次評価
所属 0005758030 文化振興課文化財係
事務事業 02586 文化財啓発事業

所属長名 近藤一博
担当者 齋藤弘之
電話番号 0566-77-4477

【基本情報】

計画回数	02	第 8 次安城市総合計画			
5 K の分類	004	きずな			
項目 (施策)	005	1 5 文化・芸術			
施策の方針	002	文化財の保存と活用			
事務事業	004	文化財啓発事業			
事業期間	昭和36年度 ~				
実施方法	直営				
会計区分	一般会計	事業区分	政策的	性質別費目	
健幸事業	まちづくり	マニフェスト		地方創生	健幸
根拠法令等					
備考	平成 2 9 年度からは、安祥文化のさとまつりが指定管理者の事業になりました。				

【事業分析】

対象	将来にわたって文化財の価値を享受する全ての市民が、
目的	地域の歴史から啓発を受け、歴史を「核」にしてまとめることで、郷土愛 (シビック・プライド) を醸成することができます。また、対象が市外に広がることにより、市外からの観光客から評価を得られるようになります。同時に、ウォーキングによる健幸都市推進の要素もあります。
手段	調査研究結果に基づき、各種講座の実施やパンフレットの作成と配布、埋蔵文化財センターでの展示、ボランティア団体との協働や育成などを行うことにより、市民が安城の歴史の価値を理解できるようにします。また、ウォーキングコース (歴史の散歩道) の整備やイベント (歴史ウォーク) によって、健幸都市づくりを実現します。さらに、地域や学校との連携や協働も行っています。
事務内容	夏休み考古学講座やおおぞら歴史教室などの各種講座 (出前講座を含む) の企画と実施、本證寺フェスティバル等の企画と参加、展示の企画と実施およびパンフレットの作成、歴史の散歩道整備と歴史ウォークの企画と開催、各ボランティア団体との協働や育成、地域のイベントへや中学校総合学習への協力などがあります。

【コスト】

(単位 : 千円)

	平成31年度 決算額	令和 2 年度 決算額	令和 3 年度 予算額
トータルコスト	14,476	12,793	8,938
事業費	4,396	2,713	2,338
国庫支出金	0	0	0
県支出金	0	0	0
地方債	0	0	0
その他	0	0	0
一般財源	4,396	2,713	2,338
人件費計	10,080	10,080	6,600
正規 (人)	1.60	1.60	1.00
その他経費	0	0	0

	平成31年度	令和 2 年度	令和 3 年度
【事務事業活動実績】	各種出前講座 土器づくり教室 夏休みこども考古学教室 おおぞら歴史教室 歴史の散歩道 (10 種) 歴史の散歩道アップグレード事業 やきものヒストリー	各種出前講座 土器づくり教室 夏休みこども考古学教室 おおぞら歴史教室 歴史の散歩道 (10 種) 歴史の散歩道アップグレード事業 (コロナの影響あり)	各種出前講座 土器づくり教室 夏休みこども考古学教室 おおぞら歴史教室 歴史の散歩道 (10 種) (コロナの影響あり)

事務事業評価シート (2 / 2)

2 頁
令和 3 年 8 月 18 日
15 時 00 分 08 秒

評価年度 令和 2 年度 進捗区分 2 次評価
所属 0005758030 文化振興課文化財係
事務事業 02586 文化財啓発事業

【定量評価】

上段：目標値 下段：実績値

指標名	単位	平成31年度	令和 2年度	令和 3年度
文化財関連事業参加者数	人	20,000.00 20,199.00	21,000.00 7,000.00	21,000.00 0.00
新聞、TVなどの登場回数	回	11.00 11.00	12.00 10.00	13.00 0.00

【定性評価】

カテゴリ	評価の観点	基準	ランク
1	必要性 国・県・民間等との補完性	1 国・県・民間等がサービスを行っていない	1
		2 国・県・民間等のサービスは不十分で、市で補完する必要がある	
		3 国・県・民間等が同様のサービスを行っている	
理由	地域に密着しながら、専門的なレベルを維持しています。		
2	必要性 市民ニーズの有無	1 市民ニーズは充分にある	1
		2 社会情勢の変化等により市民ニーズは低下している	
		3 市民ニーズはない又は不明である	
理由	市民の郷土愛の醸成のためには、必要な事業です。		
3	有効性 目標に対する進捗状況	1 目標を上回る又は目標どおりの進捗である	2
		2 目標を下回る進捗状況である	
		3 進捗はかなり遅れている	
理由	コロナ禍の影響で事業実施やマスコミ発表ができませんでした。		
4	効率性 事業の効率化・事業費の削減	1 事業手法の検討や事務改善に取り組み、具体的な成果を上げている	1
		2 事業手法の検討や事務改善に取り組んでいる	
		3 事業手法の検討や事務改善にあまり取り組めていない	
理由	他市との共同企画などに参加しています。		
5	公平性 事業規模・サービス水準	1 環境変化や他自治体等と比較して適正である。	1
		2 環境変化や他自治体等と比較してあまり適正でない。	
		3 環境変化や他自治体等と比較して適正でない。	
理由	市民目線での講座内容に努めています。		

【1次評価結果】

事業の方向性	拡充
1次コメント (400文字)	文化財保護の考え方は、これまでの調査・保存中心から、保存・活用の両立に変わりつつあります。こうした時代の流れもあり、今後、拡充が求められる事業です。特に、行政や専門家が専門的知識をもとに一方的に「啓発」するのではなく、今後は市民が主体的に参加するような形になっていくことが理想です。

【2次評価結果】

事業の方向性	評価未実施
2次コメント (400文字)	本事業においては、2次評価を実施していません。

事務事業評価シート（1/2）

評価年度 令和 2年度 進捗区分 2次評価
所属 0005758030 文化振興課文化財係
事務事業 02587 文化財保護事業所属長名 近藤一博
担当者 齋藤弘之
電話番号 0566-77-4477**【基本情報】**

計画回数	02	第8次安城市総合計画			
5Kの分類	004	きずな			
項目（施策）	005	15文化・芸術			
施策の方針	002	文化財の保存と活用			
事務事業	003	文化財保護事業			
事業期間	昭和39年度～				
実施方法	一部委託				
会計区分	一般会計	事業区分	義務的/政策的	性質別費目	
健全事業	まちづくり	マニフェスト		地方創生	健全
根拠法令等	文化財保護法、愛知県文化財保護条例、安城市文化財保護条例				
備考	平成28年度の事務事業の見直しにより、平成29年度から以下の事業を分割・統合しています。 ・文化財保護事業（史跡整備部分を分割） ・文化財保存事業（統合） ・文化財調査事業（統合） ・郷土史出版奨励事業（統合）				

【事業分析】

対象	将来にわたって文化財の価値を享受する全ての市民が、
目的	文化財を保存し、整備・活用することによって、その価値を享受できるようになります。このように市民が文化財の価値を「共有」することで、地域への誇りが芽生え、関心が高まり、連帯感が生まれます。
手段	総務的内容、調査的内容、保存的内容の3つに分けられます。総務的内容では、文化財指定やそのための文化財保護委員会運営、史跡説明看板のリニューアル、天然記念物害虫駆除などがあります。調査的内容では、建造物や美術工芸品の調査（大学への委託による調査を含む）を行っています。保存的内容では、無形民俗文化財の保存団体や、有形文化財の所有者、郷土史に関する書籍等の出版される市民への補助金を交付しています。
事務内容	文化財指定や現状変更に関する事務、文化財保護委員会の運営事務、史跡説明看板のリニューアルや天然記念物害虫駆除の委託業務のための事務、調査等を委託する場合の事務、様々な補助金交付事務があります。

【コスト】

（単位：千円）

	平成31年度 決算額	令和 2年度 決算額	令和 3年度 予算額
トータルコスト	18,743	24,091	19,298
事業費	9,923	15,271	12,698
国庫支出金	0	0	2,420
県支出金	0	0	0
地方債	0	0	0
その他	0	0	0
一般財源	9,923	15,271	10,278
人件費計	8,820	8,820	6,600
正規（人）	1.40	1.40	1.00
その他経費	0	0	0

	平成31年度	令和 2年度	令和 3年度
【事務事業活動実績】	文化財保護委員会運営 史跡説明看板リニュー アル 天然記念物害虫駆除 文化財悉皆調査 無形民俗文化財保存伝 承・有形文化財修理補 助金交付 文化振興計画策定	文化財保護委員会運営 史跡説明看板リニュー アル 天然記念物害虫駆除 文化財悉皆調査 無形民俗文化財保存伝 承・有形文化財修理補 助金交付 文化振興計画策定	文化財保護委員会運営 史跡説明看板リニュー アル 天然記念物害虫駆除 文化財悉皆調査 無形民俗文化財保存伝 承・有形文化財修理補 助金交付

事務事業評価シート（2/2）

4 頁
令和 3年 8月18日
15時00分08秒

評価年度 令和 2年度 進捗区分 2次評価
所属 0005758030 文化振興課文化財係
事務事業 02587 文化財保護事業

【定量評価】

上段：目標値 下段：実績値

指標名	単位	平成31年度	令和 2年度	令和 3年度
指定および登録文化財の件数	件	242.00 243.00	244.00 241.00	246.00 0.00
歴史・文化に愛着や誇りを感じる人の割合	%	42.00 38.30	43.00 0.00	44.00 0.00

【定性評価】

カテゴリ	評価の観点	基準	ランク
1	必要性 国・県・民間等との補完性	1 国・県・民間等がサービスを行っていない	1
		2 国・県・民間等のサービスは不十分で、市で補完する必要がある	
		3 国・県・民間等が同様のサービスを行っている	
理由	市が実施すべき地域に密着した内容を行っています。		
2	必要性 市民ニーズの有無	1 市民ニーズは充分にある	1
		2 社会情勢の変化等により市民ニーズは低下している	
		3 市民ニーズはない又は不明である	
理由	文化財保護への社会的注目度は高まっています。		
3	有効性 目標に対する進捗状況	1 目標を上回る又は目標おりの進捗である	2
		2 目標を下回る進捗状況である	
		3 進捗はかなり遅れている	
理由	指定文化財の解除により、目標を達成できませんでした。		
4	効率性 事業の効率化・事業費の削減	1 事業手法の検討や事務改善に取り組み、具体的な成果を上げている	1
		2 事業手法の検討や事務改善に取り組んでいる	
		3 事業手法の検討や事務改善にあまり取り組めていない	
理由	文化財調査を大学に委託するなど、事務改善に努めています。		
5	公平性 事業規模・サービス水準	1 環境変化や他自治体等と比較して適正である。	1
		2 環境変化や他自治体等と比較してあまり適正でない。	
		3 環境変化や他自治体等と比較して適正でない。	
理由	文化財保護委員の数は必要最小限（最大15人を10人）です。		

【1次評価結果】

事業の方向性	維持・継続
1次コメント (400文字)	史跡整備事業に比べると地味な内容ですが、文化財保護全体の核となる事業であり、維持・継続が必要です。令和2年度は、安城北部小学校のなんじゃもんじゃの枯死、古井戸の滅失があり、指定文化財数の減少となりました。現在実施中の文化財悉皆調査による新規指定文化財の開拓などを進めていく必要があります。市民アンケートの「歴史・文化に愛着や誇りを感じる人の割合」は、隔年調査となっています。文化財の修理には高額な経費を要します。今後は、ふるさと納税やクラウドファンディングなども検討していくことが必要です。

【2次評価結果】

事業の方向性	評価未実施
2次コメント (400文字)	本事業においては、2次評価を実施していません。

事務事業評価シート（1/2）

5頁
令和 3年 8月18日
15時00分08秒

評価年度 令和 2年度 進捗区分 2次評価
所属 0005758030 文化振興課文化財係
事務事業 02588 史跡整備事業

所属長名 近藤一博
担当者 齋藤弘之
電話番号 0566-77-4477

【基本情報】

計画回数	02	第8次安城市総合計画			
5Kの分類	004	きずな			
項目（施策）	005	15文化・芸術			
施策の方針	002	文化財の保存と活用			
事務事業	002	史跡整備事業			
事業期間	昭和36年度～				
実施方法	直営				
会計区分	一般会計	事業区分	義務的/政策的	性質別費目	
健全事業	まちづくり	マニフェスト		地方創生	健全
根拠法令等	文化財保護法、愛知県文化財保護条例、安城市文化財保護条例				
備考	平成28年度の事務事業の見直しにより、平成29年度から以下の事業から分離、独立させています。 ・文化財保護事業				

【事業分析】

対象	史跡の価値を共有できる全ての市民が、
目的	史跡を活用できるように整備することで、その価値を理解し、誇りが生まれることを目指します。さらに、整備された史跡が、「まちづくり」（市民参加による地域創造）の中心となるようにします。
手段	まず、史跡を開発から守り保存するために公有化（用地買収）を行います。次に、その史跡が崩落等によって価値を損なうことがないとともに、市民が見て価値がわかるように整備（ハード）します。同時に、そこで市民が「まちづくり」が可能なような仕組み（ソフト）も整えます。
事務内容	土地公有化については用地買収事務、ハードの整備については計画立案とともに有識者からの意見聴取や具体的な整備工事の実施があります。また、「まちづくり」についてはワークショップの実施やイベントの開催（参加）などがあります。

【コスト】

（単位：千円）

	平成31年度 決算額	令和 2年度 決算額	令和 3年度 予算額
トータルコスト	133,171	38,236	21,358
事業費	121,831	25,636	8,158
国庫支出金	75,370	11,716	3,235
県支出金	0	0	0
地方債	0	0	0
その他	0	0	0
一般財源	46,461	13,920	4,923
人件費計	11,340	12,600	13,200
正規（人）	1.80	2.00	2.00
その他経費	0	0	0

	平成31年度	令和 2年度	令和 3年度
【事務事業活動実績】	本證寺境内土地公有化 本證寺ワークショップ 実施 本證寺史跡公園整備 検討会議 姫小川古墳崩落防止 対策検討会議	本證寺境内土地公有化 （交渉のみ） 本證寺ワークショップ 実施 本證寺史跡公園整備 検討会議及び課題検討 本證寺石垣調査 姫小川古墳崩落防止 対策検討会議	本證寺境内土地公有化 （交渉のみ） 本證寺ワークショップ 実施（直営） 本證寺史跡公園整備 検討会議及び課題検討

事務事業評価シート (2 / 2)

6 頁
令和 3年 8月18日
15時00分08秒

評価年度 令和 2年度 進捗区分 2次評価
所属 0005758030 文化振興課文化財係
事務事業 02588 史跡整備事業

【定量評価】

上段：目標値 下段：実績値

指標名	単位	平成31年度	令和 2年度	令和 3年度
土地公有化面積の計画達成率	%	100.00 100.00	100.00 100.00	100.00 0.00

【定性評価】

カテゴリ	評価の観点	基準	ランク
1	必要性 国・県・民間等との補完性	1 国・県・民間等がサービスを行っていない	1
		2 国・県・民間等のサービスは不十分で、市で補完する必要がある	
		3 国・県・民間等が同様のサービスを行っている	
理由	史跡の公有化と整備は、市町村の事業です。		
2	必要性 市民ニーズの有無	1 市民ニーズは充分にある	1
		2 社会情勢の変化等により市民ニーズは低下している	
		3 市民ニーズはない又は不明である	
理由	史跡整備や歴史まちづくりのニーズは高まっています。		
3	有効性 目標に対する進捗状況	1 目標を上回る又は目標どおりの進捗である	1
		2 目標を下回る進捗状況である	
		3 進捗はかなり遅れている	
理由	公有化及び基本計画の目標は達成しています。		
4	効率性 事業の効率化・事業費の削減	1 事業手法の検討や事務改善に取り組み、具体的な成果を上げている	1
		2 事業手法の検討や事務改善に取り組んでいる	
		3 事業手法の検討や事務改善にあまり取り組めていない	
理由	国庫補助金を可能な範囲で申請しています。		
5	公平性 事業規模・サービス水準	1 環境変化や他自治体等と比較して適正である。	1
		2 環境変化や他自治体等と比較してあまり適正でない。	
		3 環境変化や他自治体等と比較して適正でない。	
理由	他の自治体でも、史跡整備に注目しています。		

【1次評価結果】

事業の方向性	拡充
1次コメント (400文字)	文化財保護や史跡整備は、地域への誇りやシビックプライドを醸成するという意味で、今後注目されていく事業です。特に、大河ドラマ「どうする家康」などを機に、特に関心が高まることが予想されます。ただ、従来のような史跡整備が単なるハードの整備に終始するのではなく、市民がそこで活動するソフトの魅力も高めていく必要があります。こうしたことから、平成30年度からのワークショップ「未来寺子屋」を直営で継続しています。 なお、令和3年度は、直接用地を買収することがないため、4年度以降の買収の事前交渉の進捗を評価指標にしています。

【2次評価結果】

事業の方向性	評価未実施
2次コメント (400文字)	本事業においては、2次評価を実施していません。

事務事業評価シート（1/2）

7頁
令和 3年 8月18日
15時00分08秒

評価年度 令和 2年度 進捗区分 2次評価
所属 0005758030 文化振興課文化財係
事務事業 02589 埋蔵文化財調査事業

所属長名 近藤一博
担当者 齋藤弘之
電話番号 0566-77-4477

【基本情報】

計画回数	02	第8次安城市総合計画			
5Kの分類	004	きずな			
項目（施策）	005	15文化・芸術			
施策の方針	002	文化財の保存と活用			
事務事業	001	埋蔵文化財調査事業			
事業期間	昭和26年度～				
実施方法	直営				
会計区分	一般会計	事業区分	義務的	性質別費目	
健全事業		マニフェスト		地方創生	定住・移住促進
根拠法令等	文化財保護法、安城市埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例				
備考					

【事業分析】

対象	将来にわたって埋蔵文化財の価値を享受する全ての市民が、
目的	遺跡が保存されたり、発掘調査によってその価値を知ること、地域への関心と誇りを得ることができます。文化財保護法により、埋蔵文化財包蔵地（遺跡）を開発（土木工事）する場合は、事前調査が必要です。
手段	文化財保護法に基づき、埋蔵文化財包蔵地（遺跡）を開発（土木工事）する場合、提出される申請書の受け付け、指導、処理を行います。可能な限り開発による破壊を回避する指導を行います。困難な場合は事前の試掘調査と発掘調査（記録保存）をしています。調査後は、調査成果を整理、研究し、報告書を発行するとともに、出土遺物は収蔵保存を行います。そして、その発掘成果を市民にフィードバックしています。
事務内容	埋蔵文化財包蔵地発掘の申請書受け付け、指導、処理、発掘調査（試掘・本発掘および立会い調査）、出土遺物の整理、調査研究、発掘報告書の発行などがあります。

【コスト】

（単位：千円）

	平成31年度 決算額	令和 2年度 決算額	令和 3年度 予算額
トータルコスト	75,793	85,782	87,069
事業費	61,933	66,882	67,269
国庫支出金	3,080	1,958	7,281
県支出金	0	0	0
地方債	0	0	0
その他	8,364	12,859	105
一般財源	50,489	52,065	59,883
人件費計	13,860	18,900	19,800
正規（人）	2.20	3.00	3.00
その他経費	0	0	0

	平成31年度	令和 2年度	令和 3年度
【事務事業活動実績】	開発に伴う市内遺跡発掘調査 本證寺境内確認調査 古井町都市公園確認調査 桜井駅周辺土地区画整理事業発掘調査	開発に伴う市内遺跡発掘調査 本證寺境内確認調査 姫小川古墳発掘調査 桜井駅周辺土地区画整理事業発掘調査	開発に伴う市内遺跡発掘調査 本證寺境内確認調査 姫小川古墳発掘調査

事務事業評価シート (2 / 2)

8 頁
令和 3 年 8 月 18 日
15 時 00 分 08 秒

評価年度 令和 2 年度 進捗区分 2 次評価
所属 0005758030 文化振興課文化財係
事務事業 02589 埋蔵文化財調査事業

上段：目標値 下段：実績値

指標名	単位	平成31年度	令和 2 年度	令和 3 年度
住宅着工前に発掘調査を終えることのできなかった件数	件	0.00 0.00	0.00 0.00	0.00 0.00
発掘調査の成果等がマスコミで取り上げられた件数	件	1.00 2.00	1.00 2.00	1.00 0.00

【定性評価】

カテゴリ	評価の観点	基準	ランク
1	必要性 国・県・民間等との補完性	1 国・県・民間等がサービスを行っていない	1
		2 国・県・民間等のサービスは不十分で、市で補完する必要がある	
		3 国・県・民間等が同様のサービスを行っている	
理由	県埋文センターとの住みわけが来ています。		
2	必要性 市民ニーズの有無	1 市民ニーズは充分にある	1
		2 社会情勢の変化等により市民ニーズは低下している	
		3 市民ニーズはない又は不明である	
理由	遺跡を住宅開発等する事案は増加傾向にあります。		
3	有効性 目標に対する進捗状況	1 目標を上回る又は目標どおりの進捗である	1
		2 目標を下回る進捗状況である	
		3 進捗はかなり遅れている	
理由	本證寺の深さ 4 m の堀は、新聞と TV で取り上げられました。		
4	効率性 事業の効率化・事業費の削減	1 事業手法の検討や事務改善に取り組み、具体的な成果を上げている	1
		2 事業手法の検討や事務改善に取り組んでいる	
		3 事業手法の検討や事務改善にあまり取り組めていない	
理由	重機のオペレーターは、職員に免許を取得させて対応しています。		
5	公平性 事業規模・サービス水準	1 環境変化や他自治体等と比較して適正である。	1
		2 環境変化や他自治体等と比較してあまり適正でない。	
		3 環境変化や他自治体等と比較して適正でない。	
理由	小規模な発掘調査が中心で、適正規模を維持しています。		

【1次評価結果】

事業の方向性	維持・継続
1 次コメント (4 0 0 文字)	個人の住宅開発とともに、史跡整備の情報収集のための発掘調査も行う事業で、今後も維持・継続が求められます。 安城市では、現在でも人口増加・流入による開発が増加傾向にあり、発掘調査も減少する気配がありません。しかし、長期的には、開発に伴う発掘調査から史跡整備を目的にしたものに、徐々にシフトしていくことが全国的な傾向です。

【2次評価結果】

事業の方向性	評価未実施
2 次コメント (4 0 0 文字)	本事業においては、2 次評価を実施していません。

事務事業評価シート（1/2）

1頁
令和 3年 8月23日
10時06分17秒

評価年度 令和 2年度 進捗区分 2次評価
所属 0005758040 文化振興課芸術文化係
事務事業 02590 文化活動団体支援事業

所属長名 近藤 一博
担当者 平井 友理香
電話番号 0566-77-6853

【基本情報】

計画回数	02	第8次安城市総合計画		
5Kの分類	004	きずな		
項目（施策）	005	15文化・芸術		
施策の方針	003	文化芸術の鑑賞機会提供・情報発信		
事務事業	005	文化活動団体支援事業		
事業期間	平成元年度～			
実施方法	直営			
会計区分	一般会計	事業区分	政策的	性質別費目
健全事業	ひとづくり	マニフェスト		地方創生
根拠法令等	安城市補助金等の予算執行に関する規則 安城文化協会補助金交付要綱			
備考				

【事業分析】

対象	文化協会が
目的	財政的基盤を充実させ、加盟する団体、個人の活動も活性化し、芸術文化の交流が深まります。
手段	文化活動団体を支援し、広く市民の文化活動を活性化させ、生涯にわたり、健康に芸術や文化に取り組める基盤を作ります。近年文化団体の減少傾向がありますが、安城の文化を支える文化団体の火を絶やさぬように方向性を模索しながら助成を実施します。
事務内容	助成金交付事務（職員人件費の部分があるため前金払いで、年間を2回に分けて支払います。）

【コスト】

（単位：千円）

	平成31年度 決算額	令和 2年度 決算額	令和 3年度 予算額
トータルコスト	4,475	4,220	4,640
事業費	1,955	1,700	2,000
国庫支出金	0	0	0
県支出金	0	0	0
地方債	0	0	0
その他	0	0	0
一般財源	1,955	1,700	2,000
人件費計	2,520	2,520	2,640
正規（人）	0.40	0.40	0.40
その他経費	0	0	0

	平成31年度	令和 2年度	令和 3年度
【事務事業活動実績】	<ul style="list-style-type: none">文化協会の育成今後の文化協会についての検討文協祭の実施市民芸術祭委託事業文人展、こあ展	<ul style="list-style-type: none">文化協会の育成今後の文化協会についての検討文協祭の実施市民芸術祭委託事業文協選抜展、こあ展	<ul style="list-style-type: none">文化協会の育成今後の文化協会についての検討文協祭の実施市民芸術祭委託事業文協選抜展、こあ展

事務事業評価シート (2 / 2)

2 頁
令和 3 年 8 月 23 日
10 時 06 分 17 秒

評価年度 令和 2 年度 進捗区分 2 次評価
所属 0005758040 文化振興課芸術文化係
事務事業 02590 文化活動団体支援事業

【定量評価】

上段：目標値 下段：実績値

指標名	単位	平成31年度	令和 2 年度	令和 3 年度
文化協会加盟団体数	団体	88.00 79.00	88.00 74.00	80.00 0.00

【定性評価】

カテゴリ	評価の観点	基準	ランク
1	必要性 国・県・民間等との補 完性	1 国・県・民間等がサービスを行っていない	1
		2 国・県・民間等のサービスは不十分で、市で補完する必要がある	
		3 国・県・民間等が同様のサービスを行っている	
理由	市民による芸術団体活動をまとめる文化協会への補助金支援です。		
2	必要性 市民ニーズの有無	1 市民ニーズは充分にある	1
		2 社会情勢の変化等により市民ニーズは低下している	
		3 市民ニーズはない又は不明である	
理由	安城市の文化を支える団体で、広く市民の参加があります。		
3	有効性 目標に対する進捗状況	1 目標を上回る又は目標おりの進捗である	2
		2 目標を下回る進捗状況である	
		3 進捗はかなり遅れている	
理由	会員の高齢化、コロナ禍の影響により団体数が減少しています。		
4	効率性 事業の効率化・事業費 の削減	1 事業手法の検討や事務改善に取り組み、具体的な成果を上げている	1
		2 事業手法の検討や事務改善に取り組んでいる	
		3 事業手法の検討や事務改善にあまり取り組めていない	
理由	芸術祭の 3 部門を文化協会に委託し、参加者増に貢献しています。		
5	公平性 事業規模・サービス水 準	1 環境変化や他自治体等と比較して適正である。	1
		2 環境変化や他自治体等と比較してあまり適正でない。	
		3 環境変化や他自治体等と比較して適正でない。	
理由	近隣市の文化協会と比較し、適正と考えられます。		

【1 次評価結果】

事業の方向性	維持・継続
1 次コメント (4 0 0 文字)	文化協会に秋の芸術祭を委託して 6 年目になります。昨年から引き続きコロナ禍の影響により、「市民文芸まつり」、「文芸・技芸・趣味の集い」、「市民芸能まつり」の開催自体が危ぶまれていることに加え、開催したとしても市民の自粛モードが続く中では、例年のように参加者数、来場者数の増加は見込めない状況です。しかし、そのような状況下においても安城の文化の灯を絶やさぬよう、安全に配慮しつつ市民が参加できるように運営方法等を工夫しながらの実施方法を考えていきます。「安城市青少年文化芸術全国大会等激励金」についても、コロナ禍の影響により、全国大会そのものの開催が中止又は出場を自粛するケースが多いため、申請数の増加は見込みにくい状況ではありますが、事業を継続することで、青少年の文化活動に対する支援を継続していきます。

【2 次評価結果】

事業の方向性	評価未実施
2 次コメント (4 0 0 文字)	本事業においては、2 次評価を実施していません。

事務事業評価シート（1/2）

3頁
令和 3年 8月23日
10時06分17秒

評価年度 令和 2年度 進捗区分 2次評価
所属 0005758040 文化振興課芸術文化係
事務事業 02591 市民ギャラリー美術品購入事業

所属長名 近藤 一博
担当者 平井 友理香
電話番号 0566-77-6853

【基本情報】

計画回数	02	第8次安城市総合計画		
5Kの分類	004	きずな		
項目（施策）	005	15文化・芸術		
施策の方針	001	15文化・芸術その他		
事務事業	001	市民ギャラリー美術品購入事業		
事業期間	昭和57年度～			
実施方法	直営			
会計区分	一般会計	事業区分	政策的	性質別費目
健全事業	ひとづくり	マニフェスト		地方創生
根拠法令等	安城市附属機関の設置に関する条例（安城市条例第34号）第5条			
備考				

【事業分析】

対象	市民が
目的	地元縁の深い作家の貴重な作品を鑑賞できます。
手段	安城市が所有するにふさわしい貴重な美術作品を調査研究し購入を進めます。購入した作品は、展示会を実施し、市民の皆さまにご鑑賞いただきます。令和2年度までに238点の美術作品を購入しました。
事務内容	地元安城ゆかりの作家を中心に調査、安城市民ギャラリー美術品等収蔵委員会にて検討、作品確認（内覧）

【コスト】

（単位：千円）

	平成31年度 決算額	令和 2年度 決算額	令和 3年度 予算額
トータルコスト	3,772	3,708	4,186
事業費	2,512	2,448	2,866
国庫支出金	0	0	0
県支出金	0	0	0
地方債	0	0	0
その他	0	0	0
一般財源	2,512	2,448	2,866
人件費計	1,260	1,260	1,320
正規（人）	0.20	0.20	0.20
その他経費	0	0	0

	平成31年度	令和 2年度	令和 3年度
【事務事業活動実績】	安美展の最高賞の受賞作品及び、地元の作家で全国公募展等で受賞した作品を対象に検討しました。	安美展の最高賞の受賞作品及び、地元の作家で全国公募展等で入選受賞した作品や地元縁の作家の作品を対象に検討しました。	安美展の最高賞の受賞作品及び、地元の作家で全国公募展等で入選受賞した作品や地元縁の作家の作品を対象に検討します。

事務事業評価シート（2/2）

4 頁
令和 3年 8月23日
10時06分17秒

評価年度 令和 2年度 進捗区分 2次評価
所属 0005758040 文化振興課芸術文化係
事務事業 02591 市民ギャラリー美術品購入事業

上段：目標値 下段：実績値

指標名	単位	平成31年度	令和 2年度	令和 3年度
展示作品点数	点	32.00	38.00	38.00
		83.00	181.00	0.00
観覧者数	人	3,700.00	5,100.00	4,900.00
		4,437.00	4,697.00	0.00

【定性評価】

カテゴリ	評価の観点	基準	ランク
1	必要性 国・県・民間等との補完性	1 国・県・民間等がサービスを行っていない	1
		2 国・県・民間等のサービスは不十分で、市で補完する必要がある	
		3 国・県・民間等が同様のサービスを行っている	
理由	市で收藏する作品について内容を熟知した市側が展示しています。		
2	必要性 市民ニーズの有無	1 市民ニーズは充分にある	1
		2 社会情勢の変化等により市民ニーズは低下している	
		3 市民ニーズはない又は不明である	
理由	観覧者のアンケートからも高い評価を得られています。		
3	有効性 目標に対する進捗状況	1 目標を上回る又は目標どおりの進捗である	1
		2 目標を下回る進捗状況である	
		3 進捗はかなり遅れている	
理由	購入作品を十分に利用し、展示を開催できています。		
4	効率性 事業の効率化・事業費の削減	1 事業手法の検討や事務改善に取り組み、具体的な成果を上げている	1
		2 事業手法の検討や事務改善に取り組んでいる	
		3 事業手法の検討や事務改善にあまり取り組めていない	
理由	指定管理事業者と共同で展示を開催し、作品を利用できています。		
5	公平性 事業規模・サービス水準	1 環境変化や他自治体等と比較して適正である。	1
		2 環境変化や他自治体等と比較してあまり適正でない。	
		3 環境変化や他自治体等と比較して適正でない。	
理由	他市とも劣らず、收藏品を利用できています。		

【1次評価結果】

事業の方向性	維持・継続
1次コメント (400文字)	今年度も寄贈作品や購入作品を調査しながら安城市の收藏作品として相応しい作品であるかを検討しながら進めていきます。また、收藏作品は広く市民の皆様に鑑賞いただけるように企画展示を通して利用していきます。

【2次評価結果】

事業の方向性	評価未実施
2次コメント (400文字)	本事業においては、2次評価を実施していません。

事務事業評価シート（1/2）

5頁
令和 3年 8月23日
10時06分17秒

評価年度 令和 2年度 進捗区分 2次評価
所属 0005758040 文化振興課芸術文化係
事務事業 02592 芸術鑑賞会事業

所属長名 近藤 一博
担当者 澤原 和典
電話番号 0566-77-6853

【基本情報】

計画回数	02	第8次安城市総合計画		
5Kの分類	004	きずな		
項目（施策）	005	1.5文化・芸術		
施策の方針	003	文化芸術の鑑賞機会提供・情報発信		
事務事業	004	芸術鑑賞会事業		
事業期間	平成元年度～			
実施方法	直営			
会計区分	一般会計	事業区分	政策的	性質別費目
健全事業		マニフェスト		地方創生
根拠法令等				
備考	平成28年度の事務事業の見直しにより、平成29年度から以下の事業から名称変更しています。 ・市民芸術鑑賞会事業			

【事業分析】

対象	芸術文化に興味をもつ市民が
目的	優れた舞台芸術を鑑賞する機会を得ることができます。
手段	古典芸能や伝統芸能、クラシック音楽などの鑑賞会を実施します。質の高い芸能分野の舞台公演を身近に鑑賞いただき、伝統芸能・芸術のすばらしさを感じていただきます。
事務内容	前回開催のアンケートを参考に事業内容の検討、出演団体交渉、契約事務、広報PR、チラシ作成、チケット発売、開催実施、アンケート集計、実施報告

【コスト】

（単位：千円）

	平成31年度 決算額	令和 2年度 決算額	令和 3年度 予算額
トータルコスト	10,233	6,965	12,329
事業費	3,303	35	5,069
国庫支出金	0	0	0
県支出金	0	0	0
地方債	0	0	0
その他	222	0	319
一般財源	3,081	35	4,750
人件費計	6,930	6,930	7,260
正規（人）	1.10	1.10	1.10
その他経費	0	0	0

	平成31年度	令和 2年度	令和 3年度
【事務事業活動実績】	31年度：子どもオペラ「ヘンゼルとグレーテル」を実施。市内小中学校アウトリーチ事業、安城市吹奏楽フェスティバルも継続して実施しました。	2年度：新型コロナウイルス感染症拡大防止のため「能・狂言」「安城市吹奏楽フェスティバル」「市内小中学校アウトリーチ事業」を中止しました。	3年度：「能・狂言」を実施。安城市吹奏楽フェスティバルは新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止。市内小中学校アウトリーチ事業は実施します。

事務事業評価シート（2/2）

評価年度 令和2年度 進捗区分 2次評価
所属 0005758040 文化振興課芸術文化係
事務事業 02592 芸術鑑賞会事業

【定量評価】

上段：目標値 下段：実績値

指標名	単位	平成31年度	令和2年度	令和3年度
チケット販売枚数	枚	400.00	400.00	230.00
		474.00	0.00	0.00
アンケートによる満足度	%	80.00	0.00	80.00
		90.00	0.00	0.00

【定性評価】

カテゴリ	評価の観点	基準	ランク
1	必要性 国・県・民間等との補完性	1 国・県・民間等がサービスを行っていない	1
		2 国・県・民間等のサービスは不十分で、市で補完する必要がある	
		3 国・県・民間等が同様のサービスを行っている	
理由	吹奏楽フェスティバルは市民及び市内中学生・高校生の演奏会。		
2	必要性 市民ニーズの有無	1 市民ニーズは充分にある	1
		2 社会情勢の変化等により市民ニーズは低下している	
		3 市民ニーズはない又は不明である	
理由	毎年多くの入場者があります。		
3	有効性 目標に対する進捗状況	1 目標を上回る又は目標おりの進捗である	2
		2 目標を下回る進捗状況である	
		3 進捗はかなり遅れている	
理由	コロナ禍にあって吹奏楽フェスティバルの実施を中止しました。		
4	効率性 事業の効率化・事業費の削減	1 事業手法の検討や事務改善に取り組み、具体的な成果を上げている	1
		2 事業手法の検討や事務改善に取り組んでいる	
		3 事業手法の検討や事務改善にあまり取り組めていない	
理由	各校の費用を市で取りまとめ効率的に行っています。		
5	公平性 事業規模・サービス水準	1 環境変化や他自治体等と比較して適正である。	1
		2 環境変化や他自治体等と比較してあまり適正でない。	
		3 環境変化や他自治体等と比較して適正でない。	
理由	ジャンルに変化をつけて実施、毎年ご満足いただいています。		

【1次評価結果】

事業の方向性	維持・継続
1次コメント (400文字)	令和3年度は、へきしんギャラクシープラザにて、「能・狂言」を実施します。なお、「第28回安城市吹奏楽フェスティバル」については、コロナ禍の影響を受け中止しました。 「能・狂言」は、宝生流・司宝会の出演で予定し、平成22年以来の安城公演、久々の市民のための能楽鑑賞会、高齢化が進む安城の能楽関係者の貴重な出演機会となります。 「吹奏楽フェスティバル」は、市民会館にて、市民及び市内中学校、高等学校及び吹奏楽団による28回目の演奏会を実施する予定で、近隣でも珍しい多くの学校のユニットによる演奏会で演奏者同士の交流が貴重なイベントとして期待されていましたが、中心となる中学生、高校生の安全を考慮し中止を決定しました。来年度は特徴を生かした演奏会の実現を目指します。

【2次評価結果】

事業の方向性	評価未実施
2次コメント (400文字)	本事業においては、2次評価を実施していません。

事務事業評価シート（1/2）

7頁
令和 3年 8月23日
10時06分17秒

評価年度 令和 2年度 進捗区分 2次評価
所属 0005758040 文化振興課芸術文化係
事務事業 02593 文化芸術協働事業

所属長名 近藤 一博
担当者 平井 友理香
電話番号 0566-77-6853

【基本情報】

計画回数	02	第8次安城市総合計画			
5Kの分類	004	きずな			
項目（施策）	005	15文化・芸術			
施策の方針	003	文化芸術の鑑賞機会提供・情報発信			
事務事業	003	文化芸術協働事業			
事業期間	昭和21年度～				
実施方法	一部委託				
会計区分	一般会計	事業区分	政策的	性質別費目	
健全事業		マニフェスト		地方創生	
根拠法令等					
備考	平成28年度の事務事業の見直しにより、平成29年度から以下の事業を統合しています。 ・市民芸術祭事業 ・市民演劇祭事業 ・安美展事業 ・市民公募文化事業				

【事業分析】

対象	芸術分野、技芸・芸能に興味があり、自ら創作する、上演する、演技することを望む市民が
目的	自作品の発表や展示、自らの技芸の披露、団体に企画した演劇の公演等をする機会を得ることができます。
手段	作品発表・展示の場を設けたり、技芸や演劇を披露する公演の場所を提供することで、市民の文化水準の向上と、それらの作品や技芸、演劇を鑑賞する機会の充実を図ります。
事務内容	市民文芸まつり、市民芸能まつり、文芸・技芸・趣味の集いの3事業を安城文化協会に委託、安美展・市民演劇祭の企画・募集・展示及び公演実施、市民公募文化事業の企画・募集・審査と公演までの周知啓発の補助

【コスト】

（単位：千円）

	平成31年度 決算額	令和 2年度 決算額	令和 3年度 予算額
トータルコスト	15,646	14,552	22,816
事業費	7,456	6,362	9,616
国庫支出金	0	0	0
県支出金	0	0	0
地方債	0	0	0
その他	0	0	0
一般財源	7,456	6,362	9,616
人件費計	8,190	8,190	13,200
正規（人）	1.30	1.30	2.00
その他経費	0	0	0

	平成31年度	令和 2年度	令和 3年度
【事務事業活動実績】	・市民芸術祭（安城文化協会委託事業）の開催 ・安美展の開催 ・市民演劇祭の開催 ・市民公募文化事業の募集、採択、補助	・市民芸術祭（安城文化協会委託事業）の開催 ・安美展の開催 ・市民演劇祭の開催 ・市民公募文化事業の募集、採択、補助	・市民芸術祭（安城文化協会委託事業）の開催 ・安美展の開催 ・市民演劇祭の開催 ・市民公募文化事業の募集、採択、補助

事務事業評価シート（2/2）

8頁
令和3年8月23日
10時06分17秒

評価年度 令和2年度 進捗区分 2次評価
所属 0005758040 文化振興課芸術文化係
事務事業 02593 文化芸術協働事業

【定量評価】

上段：目標値 下段：実績値

指標名	単位	平成31年度	令和2年度	令和3年度
市民芸術祭の出演および出展者数・観覧者数	人	29,800.00	30,000.00	20,000.00
		39,853.00	19,674.00	0.00
市民演劇祭の参加団体数	団体	10.00	10.00	8.00
		8.00	0.00	0.00
市民公募文化事業の公演件数	回	7.00	7.00	5.00
		5.00	2.00	0.00

【定性評価】

カテゴリ	評価の観点	基準	ランク
1	必要性 国・県・民間等との補完性	1 国・県・民間等がサービスを行っていない	1
		2 国・県・民間等のサービスは不十分で、市で補完する必要がある	
		3 国・県・民間等が同様のサービスを行っている	
理由	市民から公募して実施する事業が主体となっています。		
2	必要性 市民ニーズの有無	1 市民ニーズは充分にある	1
		2 社会情勢の変化等により市民ニーズは低下している	
		3 市民ニーズはない又は不明である	
理由	団体ごとの計画年次で市民公募文化事業の申請があります。		
3	有効性 目標に対する進捗状況	1 目標を上回る又は目標どおりの進捗である	2
		2 目標を下回る進捗状況である	
		3 進捗はかなり遅れている	
理由	コロナ禍の影響により一部の事業が実施できませんでした。		
4	効率性 事業の効率化・事業費の削減	1 事業手法の検討や事務改善に取り組み、具体的な成果を上げている	2
		2 事業手法の検討や事務改善に取り組んでいる	
		3 事業手法の検討や事務改善にあまり取り組めていない	
理由	コロナ禍にあっても開催できるよう運営方法等を改善しています。		
5	公平性 事業規模・サービス水準	1 環境変化や他自治体等と比較して適正である。	1
		2 環境変化や他自治体等と比較してあまり適正でない。	
		3 環境変化や他自治体等と比較して適正でない。	
理由	他市と比較しても適正と考えられます。		

【1次評価結果】

事業の方向性	維持・継続
1次コメント (400文字)	市民芸術祭は、感染対策を講じたうえで実施しましたが、コロナ禍の影響により市民公募文化事業は6公演中4公演が中止、市民演劇祭も9団体が出演予定でしたが中止となりました。今後も自粛モードが続く中では例年のように参加者数、来場者数の増加を見込むことは難しいと予想されますが、どの世代でも安全で安心して楽しめるような実施方法を検討し、催しを計画していきます。

【2次評価結果】

事業の方向性	評価未実施
2次コメント (400文字)	本事業においては、2次評価を実施していません。

事務事業評価シート（1/2）

9頁
令和 3年 8月23日
10時06分17秒

評価年度 令和 2年度 進捗区分 2次評価
所属 0005758040 文化振興課芸術文化係
事務事業 02594 市民ギャラリー講座事業

所属長名 近藤 一博
担当者 谷村 捺美
電話番号 0566-77-6853

【基本情報】

計画回数	02	第8次安城市総合計画		
5Kの分類	004	きずな		
項目（施策）	005	15文化・芸術		
施策の方針	003	文化芸術の鑑賞機会提供・情報発信		
事務事業	002	市民ギャラリー講座事業		
事業期間	平成15年度～			
実施方法	直営			
会計区分	一般会計	事業区分	政策的	性質別費目
健幸事業	ひとづくり	マニフェスト		地方創生
根拠法令等				
備考				

【事業分析】

対象	美術創作活動に意欲のある市民が
目的	質の高い創作活動の機会を得ながら学ぶことができます。
手段	多くの市民に美術に親しんでもらい制作意欲を高めていただき、生きがいを持って健康に暮らせ、将来の担い手となる感性豊かな人材を育てていく場を美術講座を通して提供します。
事務内容	計画（子ども向け、一般向け、親子向け）美術講座、講師選定、PR事務、参加者案内、材料準備事務、開催実施事務、（作品展示）、アンケート集計、報告事務

【コスト】

（単位：千円）

	平成31年度 決算額	令和 2年度 決算額	令和 3年度 予算額
トータルコスト	11,372	11,172	13,749
事業費	1,922	1,722	1,869
国庫支出金	0	0	0
県支出金	0	0	0
地方債	0	0	0
その他	1,034	1,108	1,110
一般財源	888	614	759
人件費計	9,450	9,450	11,880
正規（人）	1.50	1.50	1.80
その他経費	0	0	0

	平成31年度	令和 2年度	令和 3年度
【事務事業活動実績】	美術講座の企画推進に関する業務（日程、講師選定など）。講座内容検討、講師打合せ、PR、実施、アンケートの集計 14講座、1,097人（延参加者数）	美術講座の企画推進に関する業務（日程、講師選定など）。講座内容検討、講師打合せ、PR、実施、アンケートの集計 13講座 997人（延参加者数） 定員を減らし、1講座中止。	美術講座の企画推進に関する業務（日程、講師選定など）。講座内容検討、講師打合せ、PR、実施、アンケートの集計 14講座実施予定

事務事業評価シート (2 / 2)

10 頁
令和 3 年 8 月 23 日
10 時 06 分 17 秒

評価年度 令和 2 年度 進捗区分 2 次評価
所属 0005758040 文化振興課芸術文化係
事務事業 02594 市民ギャラリー講座事業

【定量評価】

上段：目標値 下段：実績値

指標名	単位	平成31年度	令和 2年度	令和 3年度
参加者数	人	190.00	192.00	192.00
		236.00	202.00	0.00
結果アンケート	%	88.00	88.00	89.00
		93.00	92.00	0.00

【定性評価】

カテゴリ	評価の観点	基準	ランク
1	必要性 国・県・民間等との補 完性	1 国・県・民間等がサービスを行っていない	1
		2 国・県・民間等のサービスは不十分で、市で補完する必要がある	
		3 国・県・民間等が同様のサービスを行っている	
理由	専門的機材を導入し、環境が整っています。		
2	必要性 市民ニーズの有無	1 市民ニーズは充分にある	1
		2 社会情勢の変化等により市民ニーズは低下している	
		3 市民ニーズはない又は不明である	
理由	アンケートなどでも高い人気度を得ています。		
3	有効性 目標に対する進捗状況	1 目標を上回る又は目標どおりの進捗である	1
		2 目標を下回る進捗状況である	
		3 進捗はかなり遅れている	
理由	参加者も順調に推移しています。		
4	効率性 事業の効率化・事業費 の削減	1 事業手法の検討や事務改善に取り組み、具体的な成果を上げている	1
		2 事業手法の検討や事務改善に取り組んでいる	
		3 事業手法の検討や事務改善にあまり取り組めていない	
理由	再利用できるものは利用し、コスト面に配慮しています。		
5	公平性 事業規模・サービス水 準	1 環境変化や他自治体等と比較して適正である。	1
		2 環境変化や他自治体等と比較してあまり適正でない。	
		3 環境変化や他自治体等と比較して適正でない。	
理由	子どもから大人まで幅広く実施しています。		

【1次評価結果】

事業の方向性	維持・継続
1次コメント (400文字)	令和2年度は講座の定員を減らし、日程を変更しながら講座を行いました。新型コロナウイルス感染症対策を充分に行いながら、アンケートでも高い評価を得ることができました。 令和3年度も感染症対策を行い、すべての前期講座で多くの申込を受け、今後も市民に創作活動に勤しみ、切磋琢磨できる機会を提供してまいります。

【2次評価結果】

事業の方向性	評価未実施
2次コメント (400文字)	本事業においては、2次評価を実施していません。

事務事業評価シート (1 / 2)

11 頁
令和 3 年 8 月 23 日
10 時 06 分 17 秒

評価年度 令和 2 年度 進捗区分 2 次評価
所属 0005758040 文化振興課芸術文化係
事務事業 02595 市民ギャラリー企画展事業

所属長名 近藤 一博
担当者 平井 友理香
電話番号 0566-77-6853

【基本情報】

計画回数	02	第 8 次安城市総合計画		
5 K の分類	004	きずな		
項目 (施策)	005	1 5 文化・芸術		
施策の方針	003	文化芸術の鑑賞機会提供・情報発信		
事務事業	001	市民ギャラリー企画展事業		
事業期間	平成16年度 ~			
実施方法	直営			
会計区分	一般会計	事業区分	政策的	性質別費目
健全事業		マニフェスト		地方創生
根拠法令等				
備考	平成 2 8 年度の事務事業の見直しにより、平成 2 9 年度から以下の事業を統合しています。 ・市民ギャラリー郷土作家展事業 ・市民ギャラリーコレクション展事業			

【事業分析】

対象	文化芸術に関心のある市民が
目的	郷土の作家を中心とした美術作品を鑑賞する機会を得ることができます。
手段	年 3 回程度、市が所蔵する美術作品を中心に展示する企画展を開催します。郷土ゆかりの作家を取り扱う展覧会や市民ギャラリーコレクションによるテーマ展示のほか、他の美術館等の協力のもと、幅広い時代や地域の作品を紹介する展覧会を実施します。
事務内容	作家及び作品調査、企画立案、作品借用事務、P R 事務、作品運搬委託事務、企画展示実施、アンケート集計、開催結果報告事務

【コスト】

(単位 : 千円)

	平成31年度 決算額	令和 2 年度 決算額	令和 3 年度 予算額
トータルコスト	15,215	14,715	13,552
事業費	5,765	5,265	3,652
国庫支出金	0	0	0
県支出金	0	0	0
地方債	0	0	0
その他	2,830	372	390
一般財源	2,935	4,893	3,262
人件費計	9,450	9,450	9,900
正規 (人)	1.50	1.50	1.50
その他経費	0	0	0

	平成31年度	令和 2 年度	令和 3 年度
【事務事業活動実績】	共同巡回展「見て、感じて、遊ぼう！はなが遊園地」(33 日間)、 「花のいろどり 草木のみどり」(9 日間)、 「心に響く風景画の魅力」(14 日間)、 「濃淡の表現」(15 日間)、 指定管理者協力)	特別展「『象書』を極める 手島右卿、山崎大抱、戸田提山」(26 日間)、 「動きの表現 からだ・もの」(9 日間)、 「染色工芸の技」(14 日間)	企画展「人物像の深遠」(13 日間)、 「Home」(9 日間)、 特別展「日本画家石川英鳳が築いた美」(26 日間)、 収蔵品展「静寂の真髄」、 「人物像に想いを込めて」(各 10 日間、指定管理者共催)

事務事業評価シート（2/2）

12頁
令和3年8月23日
10時06分17秒

評価年度 令和2年度 進捗区分 2次評価
所属 0005758040 文化振興課芸術文化係
事務事業 02595 市民ギャラリー企画展事業

【定量評価】

上段：目標値 下段：実績値

指標名	単位	平成31年度	令和2年度	令和3年度
観覧者数	人	5,700.00 6,859.00	5,100.00 4,697.00	4,900.00 0.00
アンケートによる満足度	%	85.00 85.00	85.00 92.86	85.00 0.00

【定性評価】

カテゴリ	評価の観点	基準	ランク
1	必要性 国・県・民間等との補完性	1 国・県・民間等がサービスを行っていない	1
		2 国・県・民間等のサービスは不十分で、市で補完する必要がある	
		3 国・県・民間等が同様のサービスを行っている	
理由	安城ゆかりの作家を主に展示しているため、必要性があります。		
2	必要性 市民ニーズの有無	1 市民ニーズは充分にある	1
		2 社会情勢の変化等により市民ニーズは低下している	
		3 市民ニーズはない又は不明である	
理由	アンケート結果から、観覧者ニーズを満たしているといえます。		
3	有効性 目標に対する進捗状況	1 目標を上回る又は目標どおりの進捗である	2
		2 目標を下回る進捗状況である	
		3 進捗はかなり遅れている	
理由	コロナ禍で観覧者数が減少したが、高い満足度を維持しています。		
4	効率性 事業の効率化・事業費の削減	1 事業手法の検討や事務改善に取り組み、具体的な成果を上げている	1
		2 事業手法の検討や事務改善に取り組んでいる	
		3 事業手法の検討や事務改善にあまり取り組めていない	
理由	指定管理者と連携し、効率よく事業を実施しています。		
5	公平性 事業規模・サービス水準	1 環境変化や他自治体等と比較して適正である。	1
		2 環境変化や他自治体等と比較してあまり適正でない。	
		3 環境変化や他自治体等と比較して適正でない。	
理由	特別展は受益者負担を考慮し、有料展としています。		

【1次評価結果】

事業の方向性	維持・継続
1次コメント (400文字)	コロナ禍の影響により観覧者数が減少したものの、内容に対する満足度では、昨年を上回る高い評価を得ることができました。今後は、更に効果的に事業目的が達成できるよう、郷土の作家を中心とした美術作品を鑑賞する機会を積極的に創出するとともに、より多くの方にご観覧いただけるよう、指定管理者のノウハウを生かし、コストを抑えつつ広く周知する方法を検討していきます。

【2次評価結果】

事業の方向性	評価未実施
2次コメント (400文字)	本事業においては、2次評価を実施していません。